



Pick Up News 発行が11月にずれ込んでしまいましたが、今年度後期の前半も終わり、今年はまだ残り2ヵ月となりました。日ごとの、そして朝晩での寒暖の差も大きい毎日、さらにインフルエンザやCOVID-19も依然として流行しております。体調管理を万全にして乗り切りましょう。今号では10月の学部・学科の活動を振り返りました。学生が取り組んだコンペ等での受賞も相次ぎました。大学主催の「アイデア文具コンペ」や、「絵本挿絵コンテスト」でも本学科学生が受賞しています。受賞自体も喜ばしく、誇らしいことですが、結果そのものよりも、大学の課題や学修も大変な中で、多くの学生が課外の活動に積極的に取り組んでいることを評価したいと思います。多くの学生が、建築に関わるだけでなく、部活・サークル、ボランティアなど、それぞれが自身の興味や関心を深め、さまざまな力を磨くために日々、そして継続的に課外で活動していることは大変喜ばしく、嬉しいことです。その経験が将来必ず役に立つことでしょう。時間も体力もありませんからできることを一杯やして下さい。来年2月17日(土)には、建築学部完成(はじめて卒業生を輩出)を祝して、全学生が関わる大きなイベント(講演会等)を企画中です。来月にはアナウンスできると思います。お楽しみにお待ちください!

Denmark's daily #6 不破正仁准教授は海外研修制度を活用してデンマーク・オーフスで研究活動を行っています。現地での報告です。

9月はヨーロッパでは新学期が始まる時期であり、ここオーフス建築大学でもいくつかのオープニングセレモニーが催されていました。なかでも9月初旬に行われたオープンキャンパスにあたるOPEN23は盛大で、普段のワークスペースが講演会場に様変わりしたのは圧巻でした。大学の建物は各階に大きな吹き抜け空間があり、そのスペースを講演会場とすることで、隣の会場の盛り上がりも伝わってくる仕掛けも見事だと思えました。いくつかの興味深い講演を聴講したのち、ランチや講演会終了後のプレクティブタイムでの外部空間の賑わいに紛れ込むことができましたのは得難い体験でした。

9月の後半には、後期の講義開始前の一週間を利用して、各地の農山漁村を車で巡りました。移動期間7日間で約4,500kmを走破し、中日には大学に戻り、ランドスケープデザインに関する講演会を聴講することもできました。

旅の前半はコペンハーゲンからマルメに渡り、スウェーデンを北上し、ノルウェーのフィヨルドの街ベルゲンを目指しました。夜のフィヨルドの漆黒の闇を体験し、雨の多い街の雨の日の景色を写真に納めてきました。ここではフィヨルドの険しさとその広がる景観の美しさに圧倒されました。オスロの民族博物館や資料でみた景色の実物が目の前に現れた時には興奮しました。旅の後半は、オランダの湿地帯を抜け、ベルギーの麦畑・フランス・ルクセンブルクの牧草地帯に点在する小さな村々を抜け・制限速度のないドイツのアウトバーンの走行車線(追い越される車線)を安全に利用し、デンマークに戻りました。

頑丈でなさそうな団子の先に戯れる牛や羊の群れにも驚きましたが、海や農地に林立する風力発電やソーラーパネルの存在も気になりました。

いずれもこの4,500kmの中での体験は、得難いものばかりで、感動の連続でした。もちろん、ひとりの運転・走破は難しく、日本からの助っ人があったことも旅の達成には欠かせませんです。本当に感謝です。ここに記して謝意を表します。

J I A 東北建築学生賞のコンペで建築学科の学生が奨励賞・河北新報社賞を受賞(建築学科4年 海道遙佳さん:石井研)

学生コンペ(新宿みらいアイデアコンペティション)で、齋藤研+錦織研の4年生チームが最優秀賞を受賞(永窪輝斗さん・田中堅太郎さん・山内雄一斗さん・山田祐翔さん)

齋藤隆太郎講師が主宰する設計事務所で、TBS火曜ドラマ「マイ・セカンド・アオノハル」(主演:広瀬アリス)の撮影

4年生の2名が2ヵ月間、台湾・中原大学(台湾)に短期留学 現地で卒業設計に取り組む



IUW (10大学合同ワークショップ in 七ヶ浜)の最終講評会開催

5月から行われている「10大学による東北復興ワークショップin七ヶ浜(IUW)」に本学建築学科の4年生が参加。その最終講評会が行われました。東北工業大学は、「活動を拓く」というタイトルで、齋藤研究室、錦織研究室のメンバーが、七ヶ浜町の公共建築についての提案を行いました。11/14-11/18にせんだいメディアテークにて展示、11/24-28に一番町ギャラリーで展示となります。WSには本学の他全国の9大学の学生が参加しました。(参加大学:足利大学、宇都宮大学、国土館大学、千葉工業大学、東京芸術大学、東京大学、東京理科大学(工、理工)、宮城学院女子大学、本学)



Pick Up Lab. 日本の歴史ある建物を、実際に目で見て理解を深めたいと思い、歴史の**中村研究室**を選びました。

中村研の良いところは、実測調査など学外実習が多いところです。実際に歴史ある茶室や近代和風住宅を見て、先生や専門の講師の方から話を聞き、実測図の作成をするので、より興味が湧きますし、実践的な力が得られます。中村先生の伝統建築の知識量が凄いで、実習のたびに圧倒されます。また実測調査は宮城県だけでなく、東北を中心に県外にも行くことが多いので、建築物を学ぶ以外にも土地勘や地元の方と話すことも多々ありコミュニケーション能力も身に付くと思います。(M1・千葉璃乃)

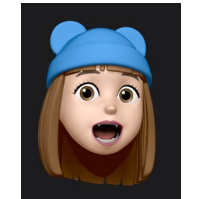


伝統的な茶室の実測調査



3年 千葉 洸暉さん
水沢高校 出身

Pick Up Student 今年の夏休みを振り返ると、施工管理のインターンシップに参加し、その結果、施工管理のやりがいを自分なりに理解することが出来ました。将来、施工管理として働く道も良いのではないかと考えるようになりました。しかし、夏休みの後には研究室配属が控えており、先生との面談を行ったことで、自分の進路は進学か就職かどうすべきか改めて悩むようになりました。研究室の先輩方とも話をする機会があり、今の自分には職種の理解や研究が不十分であると感じました。夏休みにもう少し多くのインターンシップに参加すればよかったという後悔はありますが、これから就職活動も並行して進め、自分が本当に何をしたいのかを定められるよう行動していきたいです。



1年 武内 紀乃さん
仙台城南高校 出身

Pick Up Student 一年前期で建築を学ぶ中で私自身が特に面白かったと思った授業は三つあります。一つ目は建築材料です。材料ごとの長所・短所や、どの材料をどこに使えばいいのかなど詳しく勉強していくうちにとても面白く感じました。二つ目は建築設計です。前川国男自邸の設計図を描き、時には上手くできずイラッとすることもありましたが、描き進めていくうちに建物の構造が少しずつ理解できてきました。三つ目は建築表現です。模型を作ってポスターにするという授業内容で、自分の作品だけでなく他の人の作品も見れるため、とても面白かったです。後期の授業は前期よりも建築に関する授業が多いので、大変な部分も多いと思いますが、楽しく頑張っていきたいです!